

Ⅱ. 処理適期幅の広い新一発除草剤(初・中期一発剤)

1. 背景とねらい

現在使用されている一発除草剤(初期一発除草剤)は、ノビエ等の殺草幅が1～1.5葉程度までと狭く、植代後移植までの期間が長かったり、処理時の不順天候等で除草剤の処理時期が遅れる様な時には、雑草の生育が進み、一回の処理だけでは残草となることもあり、現実的には移植前後に初期除草剤を処理し、その後に一発除草剤を使用する体系使用や、中期剤・後期剤との組み合わせ使用がかなり見られる。

今回新除草剤として、特にノビエとホタルイに卓効を示し、しかも処理適期幅も広く一回の処理だけで中・後期剤をはぶくことができる初・中期一発除草剤と呼ばれる除草剤が開発されたので指導上の参考に供する。

2. 技術内容

1) ピラゾレート・プロモブチド・メフェナセット粒剤

商品名：リードゾン粒剤 試験名：F S S-115粒剤 成分：ピラゾレート4.0%
プロモブチド 4.0% メフェナセット 3.5% 毒性・魚毒性：普通物 B類

(1) 除草剤の特性

プロモブチドは酸アミド系除草剤に属し、ホタルイに卓効を示す除草剤であり、雑草の幼芽部及び根部から吸収され、茎葉部の成長点の細胞分裂を阻害し、枯草作用を示す。

メフェナセットも酸アミド系除草剤でノビエに卓効を示すが、雑草の根部・幼芽部の主として成長点原基に作用し、細胞分裂・伸長を阻害するものである。

両者にノビエや広葉雑草に卓効なピラゾレートを混合することによって相加的に殺草力を増大し、広範囲の雑草に対して安定した高い効果が期待できる。効果は比較的遅効的である。

(2) 使用方法

ノビエ 2.5葉期まで枯殺可能だが、ノビエやホタルイ・ミズガヤツリへの効果を高め、しかも一回の処理で十分な効果を期待するための実用的な処理適期は、移植後7～12日、ノビエ 2.0葉期までで、湛水のまま均一に散布し、3～4日間は水を切らない。漏水が少なく、難防除雑草の少ない水田では中・後期の除草剤はほとんど必要としない。

2) ナプロアニリド・プロモブチド・メフェナセット粒剤

商品名：シンザン粒剤 試験名：NTN-831粒剤 成分：ナプロアニリド 7.0%
プロモブチド 4.0% メフェナセット 3.5% 毒性：魚毒性：普通物 B類

(1) 除草剤の特性

ピラゾレート・プロモブチド・メフェナセット粒剤のピラゾレートのかわりに、ノビエ及び広葉雑草に卓効なナプロアニリドを混合することにより相加的に殺草力が増大し、広範囲の雑草に対して安定した高い効果が期待できる。効果は比較的遅効的である。

(2) 使用方法-----ピラゾレート、プロモブチド、メフェナセット粒剤と同様である。

3. 指導上の留意事項（両剤共通）

- 1) ノビエ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ウリカワ・ヘラオモダカとも2葉期まで、ヒルムシロは発生期までが本剤の散布適期であるので時期を失しないように散布する。
- 2) 極端な浅植え、浮き苗の多い水田、砂質土壌及び漏水田では生育抑制の薬害が出ることもあるので使用しない。
- 3) オモダカ・クログワイ・シズイには除草効果が劣るので他の有効な薬剤を使用する。
一年生広葉雑草（アゼナ・キカシグサ・オオアブノメ等）の再発はやや早い。

4. 参考文献・資料

- 1) 水稻作関係除草剤試験成績書 昭和60.61.62年 岩手農試 県南分場
- 2) 除草剤展示圃成績書 昭和62年 岩手県 県植防
- 3) 改訂・最新除草剤解説（1987） 日本植物調節剤研究協会
- 4) 昭和62年度 水稻除草剤適用性試験成績概要 日本植物調節剤研究協会

5. 試験成績

省 略